平成29年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年２月13日

上場会社名　Ｍーフルッタフルッタ　上場取引所　東
コード番号　2586　ＵＲＬ　https://www.frutafruta.com/
代表者　（役職名）代表取締役社長執行役員ＣＥＯ　（氏名）長澤　誠
問合せ先責任者　（役職名）取締役執行役員　（氏名）林　建佑　ＴＥＬ　03-6272-3190
四半期報告書提出予定日　平成29年２月14日
配当支払開始予定日　ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成29年３月期第３四半期の業績（平成28年４月１日～平成28年12月31日）

（１）経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年３月期第３四半期	1,294	△37.4	△395	ー	△470	ー	△468	ー
28年３月期第３四半期	2,067	△21.9	△277	ー	△271	ー	△308	ー

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年３月期第３四半期	△403.29	ー
28年３月期第３四半期	△305.57	ー

（注）平成28年３月期第３四半期累計期間及び平成29年３月期第３四半期累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの１株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年３月期第３四半期	2,405	233	9.7	185.94
28年３月期	2,714	504	18.6	499.96

（参考）自己資本　29年３月期第３四半期　232百万円　28年３月期　504百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年３月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
29年３月期	ー	0.00	ー		
29年３月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．平成29年３月期の業績予想（平成28年４月１日～平成29年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,090	△18.7	△365	ー	△450	ー	△460	ー	△369.16

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：有

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年３月期３Ｑ	1,250,166株	28年３月期	1,009,900株
②　期末自己株式数	29年３月期３Ｑ	ー株	28年３月期	ー株
③　期中平均株式数（四半期累計）	29年３月期３Ｑ	1,161,831株	28年３月期３Ｑ	1,009,400株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外でありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 6
第３四半期累計期間 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
(継続企業の前提に関する注記) …… 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) …… 7
(セグメント情報等) …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策等の効果により、雇用・所得環境の改善が続くなか、景気は、弱含みながらも、緩やな回復基調で推移しました。一方で、海外経済については、アメリカ新大統領の「アメリカ第１主義」を掲げた経済政策による影響と中国を始めとしたアジア新興国等の景気の下振れリスク、英国のＥＵ離脱問題等による不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響等で、依然として、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、全体的な消費者マインドは低調に推移するなか、節約志向が鮮明になる等、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境下、当社は、当下期の施策として事業ポートフォリオの見直し（ＮＢ事業部門の商品定番化による在庫管理強化）を進める一方、当社資本業務提携先であるアスラポート・グループ傘下の弘乳舎と冷凍デザートをはじめとしたヨーグルト等の乳製品の新製品開発、同傘下の外食チェーン及び九州地区への製品開発を進めております。しかし、これらの製品開発は想定よりも企画・開発等に時間を要したことで、当四半期の売上高への寄与が計画を下回ることとなりました。なお、これらにつきましては、第４四半期以降において売上高及び利益に対して寄与するものと想定しております。

このように、業績回復を図るべく取組んでおりますが、事業ポートフォリオ見直しによる商品点数の絞り込みと、業務提携先との新製品開発の遅延から当第３四半期累計期間の売上高は1,294,430千円(前年同期比37.4％減)となりました。

一方、利益につきましては、事業ポートフォリオを見直し、コンビニエンス・ストアー(以下、ＣＶＳという。)における商品取り扱い点数を縮小させたことと、今夏発売した新製品の売上高が想定を大幅に下回ったこと等が影響し粗利が減少いたしました。また製品在庫のコントロールを図ることで廃棄の低減に努めましたが、一部製品の売上高が想定を下回ったこと等で廃棄の低減が想定ほどには進まず、結果として、売上総利益は285,871千円(前年同期比49.4％減)となりました。

一方、販売費及び一般管理費においては、倉庫料の低減が想定ほどには進まなかったものの、引き続き人件費や経費削減に努めたことで、販売費及び一般管理費は681,231千円(前年同期比19.2％減)となりました。その結果、当四半期の営業損失は395,359千円（前年同期は営業損失277,526千円）となりました。また、2016年6月にデリバティブ取引契約を解約し営業外費用においてデリバティブ解約損54,606千円を計上したため経常損失は470,746千円(前年同期は経常損失271,212千円)、四半期純損失は468,549千円(前年同期は四半期純損失308,445千円)となりました。

当社は輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。事業部門別の業績は次のとおりであります。

ナショナル・ブランド事業部門（ＮＢ事業部門）に関しては、当社主力製品のフルッタアサイーシリーズのＣＶＳでの取扱いを縮小させた影響や商品ラインナップの見直しの為、前期のように秋冬において多数の新製品発売を実施しなかったこと等もあり、ＮＢ事業部門全体の売上高は726,878千円(前年同期比36.8％減)と、前期と比較すると大幅な減少となっておりますが、当第３四半期累計期間の売上高は概ね想定内で推移しております。第４四半期以降においては、新製品の発売も予定されており、引き続き消費者へ食生活の提案並びにアサイーの訴求に取組み売上高の向上に努めてまいります。

アグロフォレストリー・マーケティング事業部門（ＡＦＭ事業部門）に関しては、大手菓子メーカーに採用されているアグロフォレストリー産カカオ豆が高級チョコレートでの需要の高まりを見せているものの、天候不順により現地ブラジルでのカカオ豆の収穫が減ったことから原料調達が想定を下回ったため、需要の高まりに反して機会損失となりました。また、事業ポートフォリオの見直しで、ＡＦＭ事業部門の比率を高めることを目標としていますが、成果が遅れており、外食チェーン店や食品メーカーでのアサイー原材料の採用も一巡するなか売上は低調となりました。

一方で、アスラポート・グループ傘下の弘乳舎との冷凍デザート等の新製品開発も進めており、宅配弁当向けやアスラポート・グループ傘下の外食チェーンにも製品提案に取組むことで売上高の向上に努めておりますが、その効果は第４四半期以降を見込んでおります。この結果、ＡＦＭ事業部門全体の売上高は440,285千円(前年同期比39.7％減)となりました。

ダイレクト・マーケティング事業部門（ＤＭ事業部門）の、直営店舗に関しては、店舗のリブランディングを進めていくことを目的に当社旗艦店の渋谷ヒカリエ店１店舗に集約する形とし、ホットメニュー等の新メニューの提案やカートカン等の物販並びにトッピング・パスポート券を配布する等キャンペーンを実施し販売促進に取組みました。また、今年３月には渋谷ヒカリエ店のリニューアルも予定しており、フルッタフルッタの旗艦店並びに今後展開予定としているＦＣ店舗のモデル店としての役割を最大限に発揮し、売上高向上と消費者へのアサイーの再認知を図るべく努めてまいります。

ＷＥＢ通販に関しては、自社通販サイトへの誘導による販売促進に取組みましたが、2016年11月にリリースいたしました、株式会社ファイトロックス(本社:沖縄県うるま市、代表取締役:伊藤　史紘)とアサイーによるフコキサンチンの安定化について特許を共同出願し、アサイーとフコキサンチンを使用した通販専用製品の開発も進めており、来期以降の販売を目指し取組んでおります。また、今後の取組みとして、他社への原料販売やナショナル・ブランド製品開発なども進めることで、当社事業のアサイーと並びもう1つの柱になれるよう取組んでまいります。

この結果、ＤＭ事業部門全体の売上高は127,266千円(前年同期比32.3%減)となりました。

（２）財政状態に関する説明

①　資産、負債及び純資産に関する分析

(資産)

当第３四半期会計期間末における総資産の残高は、前事業年度末より308,841千円減少したことで、2,405,797千円となりました。流動資産の残高は、229,814千円減少して、2,378,643千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が169,941千円増加した一方で、原材料及び貯蔵品が173,865千円減少、商品及び製品が120,589千円減少したこと等によるものであります。固定資産の残高は、79,026千円減少して、27,154千円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が79,916千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第３四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末より37,205千円減少したことで、2,172,526千円となりました。流動負債の残高は、253,489千円減少して、1,682,651千円となりました。この主な要因は、短期借入金が83,951千円増加した一方で、買掛金が158,649千円減少、1年内返済予定の長期借入金が127,272千円減少したこと等によるものであります。固定負債の残高は、216,283千円増加して、489,875千円となりました。この主な要因は、資金調達による転換社債型新株予約券付社債の発行により155,000千円増加、長期借入金が68,272千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第３四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末より271,635千円減少して、233,270千円となりました。この主な要因は、第三者割当増資等により資本金及び資本剰余金が196,100千円増加した一方で、四半期純損失の計上により利益剰余金が468,549千円減少したこと等によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第３四半期累計期間の営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、前回発表（平成28年11月14日「平成29年３月期　第２四半期決算短信」）の予想数値を超過しておりますが、今後、資本業務提携先とのシナジー効果と新規取組みによる影響及び第４四半期の後半にかけて新製品を発売し売上増加による利益確保を見込んでいるため、直近に発表している業績予想からの修正は行っておりません。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに公表させていただきます。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号　平成28年６月17日）を第１四半期会計期間に適用し、平成28年４月１日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第３四半期累計期間において、四半期財務諸表への影響はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において重要な営業損失の発生や原材料在庫の増加による資金繰りの悪化により、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、当社は、当該状況を改善・解消すべく取組んでおります。

資金面に関しては、６月22日に開示いたしました「第三者割当による新株式、第１回転換社債型新株予約権付社債及び第５回新株予約権の発行並びにコミットメント条項付第三者割当契約の締結並びに主要株主の異動に関するお知らせ」のとおり、第三者割当による資金調達を実施し、７月８日に総額349,014千円の払込が完了しております。また、既存取引銀行との間においても、継続的な支援が得られており、当面の資金繰りについては問題ないものと考えております。

また、当社は資本業務提携先であるアスラポートダイニング・グループ(以下、アスラポート・グループという。)傘下の弘乳舎と開発した冷凍デザートの新製品が宅配弁当のデザートメニューに採用されるなど、アスラポート・グループとのシナジー効果が徐々に現れてきております。また、海外事業展開としては、海外の飲料製造メーカーと開発した新製品を世界的な大手会員制流通企業のアジア地域店舗への導入にも取組んでおり、今後の事業展開が期待されます。こうした取組みにより、資金繰りが悪化した要因ともなっていたアサイーの原材料在庫の資金化を推し進めることで、営業キャッシュ・フローの改善と、引き続き経費削減に取組み業績回復に努めてまいります。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

３．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成28年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成28年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	287,576	457,518
売掛金	235,875	196,471
商品及び製品	401,625	281,035
原材料及び貯蔵品	1,592,240	1,418,375
その他	91,139	25,241
流動資産合計	2,608,457	2,378,643
固定資産		
有形固定資産	－	596
無形固定資産	－	292
投資その他の資産	106,181	26,265
固定資産合計	106,181	27,154
資産合計	2,714,639	2,405,797
負債の部		
流動負債		
買掛金	349,028	190,379
短期借入金	1,222,200	1,306,151
1年内償還予定の社債	25,000	－
1年内返済予定の長期借入金	221,840	94,568
資産除去債務	2,954	－
店舗閉鎖損失引当金	3,482	－
その他	111,634	91,551
流動負債合計	1,936,140	1,682,651
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	－	155,000
長期借入金	227,660	295,932
資産除去債務	8,711	8,711
その他	37,221	30,232
固定負債合計	273,592	489,875
負債合計	2,209,732	2,172,526
純資産の部		
株主資本		
資本金	363,465	461,515
資本剰余金	401,950	500,000
利益剰余金	△260,509	△729,058
株主資本合計	504,906	232,456
新株予約権	－	814
純資産合計	504,906	233,270
負債純資産合計	2,714,639	2,405,797

（２）四半期損益計算書

（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成27年４月１日 至　平成27年12月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成28年４月１日 至　平成28年12月31日）
売上高	2,067,842	1,294,430
売上原価	1,502,513	1,008,558
売上総利益	565,329	285,871
販売費及び一般管理費	842,855	681,231
営業損失（△）	△277,526	△395,359
営業外収益		
受取利息	43	54
為替差益	19,508	1,631
還付加算金	84	781
その他	836	737
営業外収益合計	20,473	3,205
営業外費用		
支払利息	10,248	16,195
デリバティブ評価損	3,743	－
デリバティブ解約損	－	54,606
その他	168	7,789
営業外費用合計	14,159	78,592
経常損失（△）	△271,212	△470,746
特別利益		
固定資産売却益	160	12
特別利益合計	160	12
特別損失		
店舗閉鎖損失	1,291	－
その他	10	－
特別損失合計	1,302	－
税引前四半期純損失（△）	△272,354	△470,734
法人税、住民税及び事業税	△471	1,841
法人税等調整額	36,562	△4,026
法人税等合計	36,090	△2,184
四半期純損失（△）	△308,445	△468,549

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、平成28年７月８日付で、株式会社弘乳舎から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第３四半期累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ72,100千円増加しております。また、転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権の行使に伴い、資本金及び資本準備金がそれぞれ24,500千円増加し、新株予約権の権利行使による新株式発行により5,800株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,450千円増加しております。

これらの結果、当第３四半期会計期間末において資本金が461,515千円、資本剰余金が500,000千円となっております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期累計期間（自　平成27年４月１日　至　平成27年12月31日）

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自　平成28年４月１日　至　平成28年12月31日）

当社は、輸入食品製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。